

## 第4段階：ガリラヤにおける大宣教

### 回 ガリラヤ巡礼に至る重要な出来事

#### 3. 洗礼者ヨハネはイエスに安心を求める

ディリー・ジーザス・ニュース #083

基本テキスト: ルカ7.18-23 (並行テキスト: マタイ11.2-6)

18ヨハネの弟子たちは、これらのことすべてヨハネに告げた。ヨハネは獄中でキリストの働きについて聞いて、弟子二人を呼び、19 主のもとに遣わして尋ねさせた。「あなたは、きたるべき方なのですか。それとも、私たちはほかの方を待つべきでしょうか。」

20 その人たちはイエスのもとに来て言った。「バプテスマのヨハネが、わたしたちをあなたのところに遣わして、『あなたは、きたるべき方なのですか。それとも、ほかの方を待つべきでしょうか』と尋ねさせたのです。」

21 そのとき、イエスは多くの病気や苦しみ、悪霊にとりつかれた人々を癒し、多くの盲人に目が見えるようになった。22 そこで、イエスは使徒たちに答えて言われた。

「戻って、あなたがたが見聞きしたことをヨハネに報告しなさい。』盲人は見えるようになり、足の不自由な人は歩き、らい病の人は（皮膚病は）清められ、耳の聞こえない者は聞こえるようになり、死者は生き返り、貧しい人々に福音が宣べ伝えられている。」（イザヤ35:5-6; 61:1）

23 「わたしのゆえにつまずかない人は、本当に幸いである。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =<sup>MT</sup>、マーク=<sup>M</sup>、ルカ=<sup>L</sup>、ヨハネ=<sup>J</sup>、使徒行伝=<sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています。** 旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

#### コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤのどこか
タイムライン	西暦31年5月（第16月）
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	回 ガリラヤ巡礼に至る重要な出来事
タイトル	3. 投獄された洗礼者ヨハネはイエスに安心を求める

## 第4段階：ガリラヤにおける大宣教

コメント：

イエスが十二使徒を任命し、山上の教えを説いた後、そしてイエスにとって決定的な第二回ガリラヤ巡礼に至るまでの重要な出来事を網羅した6つの朗読は、今日では異なる内容を含んでいます。イエスの言葉の神聖な権威を示す二つの力強い奇跡を描いた後、イエスの物語は、イエスに対する様々な反応を強調する一連の出会いを描いています。

次の4つの朗読では、洗礼者ヨハネがガリラヤにおけるイエスの宣教活動に疑問を呈した様子を目にします (DJN) #083、#084)。次にイエスは、多くの奇跡を行った3つの町の住民に対し、イエスへの全くの無反応の結果について警告します (#085)。このクラスターは、シモンという名のパリサイ人と (#086) の対比で終わります。これは、福音書に記された人物の中で最も感動的で深いイエスへの応答の一つである、多くの赦しを受けたためにイエスを深く愛した女性との対比です。これらの朗読はそれぞれ、イエスの2度目のガリラヤ巡回中に間もなく起こる宣教活動における重要な変化に備えるものとなります。

今日の朗読は、イエスがガリラヤで宣教活動を行っていた間、イエスの知らせがパレスチナ全土にどれほど広まっていたかを示しています。奇跡的な思いやりの爆発が、その知らせを広めたのです。

洗礼者ヨハネは、約8か月前にヘロデ・アンティパスによって投獄されていました。聖書は彼が投獄された場所を記していませんが、1世紀のユダヤ歴史家ヨセフスは、ヨハネが父であるヘロデ大王によって築かれたマケロスの宮殿兼要塞に拘留されていたと記しています。死海の東に位置するマケロス要塞は、人里離れた荒野に位置していたため、この地域で最も防御力の高い要塞の一つとしてその価値を高めました。

ヨハネはイエスが神の子であることを確信していましたが、メシアとしての働きがどう展開していくのか混乱していました。預言者ヨハネはイエスに正直に質問を投げかけるという正しい行いをしました。主の応答は、ヨハネの混乱の中に何ら欠陥や不忠実を見出さなかつたことを明らかにしました。

ヨハネにとって何がそんなに理解しにくかったのでしょうか？まず、投獄によって絶え間ない精神的・感情的ストレスにヨハネがいかに耐え難い忍耐力を失いつつあったかを考えてみましょう。彼は自分の運命がどうなるか全く知りませんでした。ヘロデ

アンティパスは時折ヨハネを呼び寄せて説教を聞かせ、彼があまりにも罪に陥ると追い返しました。しかしヘロデは彼を罪で告発することも、解放することもしませんでした。メシアが宣教に出ている間、ヨハネは宙ぶらりんの状態にあり、ヨハネはメシアのために道を備えるという強い神の召命を受けていました。彼の忍耐は限界に達していました。

第二に、ヨハネは、イエスがローマ帝国を倒すという、当時の人々のメシア的期待をある程度共有していました。ヨハネは、イエスが主に罪と死からの救い主であることを知っていたが、メシアの王国は依然として地上における統治であった。ユダヤでのヨハネの宣教活動がイエスと重なっていた6ヶ月間、主は群衆ではなく個人に静かに証しをされた。奇跡は行われなかった。おそらくヨハネには、イエスは荒野で静かに地下運動を組織していましたが、それが突如立ち上がり、ローマに反乱を起こしました。これは、数年ごとに立ち上がった他のメシア志願者たちの共通のパターンでした。

ヨハネが投獄された後、イエスがガリラヤに移ると、彼の宣教活動は突如として公の説教、癒し、そして解放へと変化しました。大勢の群衆がイエスに従い始めました。ヨハネは、イエスが従う大群の中から軍隊を組織するだろうと予想していたのでしょう。しかし、ガリラヤで既に8ヶ月が経過しても、主は御国の王座

## 第4段階：ガリラヤにおける大宣教

に就く気配を見せませんでした。ヨハネはこのすべてがどこへ向かっているのか、全く理解していませんでした。

ヨハネにとって、三つ目の悩みがありました。ヨハネの弟子たちが、イエスも弟子たちも断食をしないことに疑問を呈したことは既に述べました（DJN #059）。ヨハネは厳格な靈的戒律を守る人であり、イエスは弟子たちにも同じように教えました。イエスは、パリサイ派の運動がどのようなものであったかを示す素晴らしい模範でした。（初期のパリサイ派の信仰の心を理解するには、詩篇119篇を読んでください。彼らは律法主義者ではなく、エズラのように神の言葉を心から愛する敬虔主義者でした。）イエスがラビの伝統に従わず、靈的鍛錬を軽視し、安息日の遵守に関してパリサイ派と対峙する姿勢を見せたことは、ヨハネが予想していたことではありませんでした。

これらすべてをまとめると、ヨハネがメシアに対する自身の期待と、マケロスの牢獄の奥深くで彼に届いた知らせとの間の相違に苦悩していたことが分かります。イエスを深く尊敬する謙虚な人であったヨハネは、自分の見解が間違っているのではないかと考えていました。ヨハネがイエスに質問をした誠実さと真摯さは、ヨハネの心を知り、彼に触れた主によって高く評価されました。次の朗読で見るよう、主はヨハネについて良いことしか語っていませんでした。

実のところ、肉体を持って生きている者の中で（イエスを除いて）、メシアの宣教の預言的な時系列、特に十字架の苦しみが栄光の統治に先立っていなければならないことを理解している人は誰もいませんでした。イエスはヨハネの苦悩を理解していました。そこでイエスは、ヨハネに聖書の教えを託すことによって、最も効果的な方法で彼を励ました。

の二人の弟子が質問を持ってヨハネのもとにやって来た時、イエスはまたしても大規模な奇跡の働きを行っていました。イエスは、ヨハネがよく知っていたイザヤ書の救世主に関する一節を引用して、ご自身のメッセージをヨハネに送り返しました。それは、イエスがその働きにおいて聖書を成就している方法をヨハネが理解できるようにするためにでした。ヨハネはイザヤや他の預言者によって預言された出来事の時系列を完全に理解することは決してなかったでしょうが、聖書に記されているとおりにイエスが行なっていること、すなわち、盲人の目を開けること、足の不自由な人を歩けるようにすること、らい病を治すこと、耳の聞こえない人を聞こえるようにすること、そして貧しい人に福音を宣べ伝えること、を確かに知ることができました。これらは救世主に関する奇跡であり、イエスはヨハネを含め、誰も想像できなかつた規模でそれを行っていたのです。

最後に、これはイエスが彼のサガの中で大規模な癒しと奇跡を行った5回目の出来事であったことを付け加えおきます。イエスがその日に何人の人々を癒したかは分かりませんが、ギリシャ語の動詞から、それが一日中続く宣教活動であったことは明らかです。イエスが癒した多くの人々は大いに喜び、イエスが聖書に記されているメシアの行いをまさに神のみが成し遂げられる方法で行ったことを、洗礼者ヨハネは見事に証明しました。ヨハネはイエスがメシアであることを確信することができました。

応用：

イエスが山上の教えの終わりに強調したように、眞の弟子は御言葉に留まります。イエスはヨハネに、彼がメシアであることを示す聖書的な証拠を与え、彼を励ました。ヨハネの信仰が、権威ある御言葉という岩の上にしっかりと根ざし続けることを願われたのです。

## 第4段階：ガリラヤにおける大宣教

洗礼者にとって善であったことは、私たちにとっても最善です。私たちは、聖書に記されたイエスの生涯、死、そして復活に基づいてイエスを理解し、知る必要があります。福音書はまさにそれを私たちに明確に示しています。

確かに、福音書には理解しにくい部分があり、従うのはさらに難しい部分もあります。しかし、イエスはこう言われました。

」わたしのゆえにつまずかない人は本当に幸いである。」

子どものような信仰の目でイエスを見ることでイエスを知るという祝福は、地上で私たちが経験できる最大の祝福です。このすべては、イエスの言葉を通して与えられます。

福音書の中でイエスの生涯を毎日見るにつれて、イエスに対するあなたの期待と理解はどのように変化していますか。

今日はイエス様にどんな質問をする必要がありますか？